

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770800340		
法人名	医療法人社団 小野病院		
事業所名	グループホーム レインボー		
所在地	喜多方市関柴町上高額字広面673-6		
自己評価作成日	平成27年2月6日	評価結果市町村受理日	平成27年6月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成27年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様との「関わり合いの時間」を設け、利用者様に対応できる意向の把握に努めケアに活かしている。職員は柔軟な業務内容をとっていることにより地域のお祭りや催し物等に参加したり周囲への関わりができるよう支援に努めている。週1回課外活動としてファミリーレストランやコーヒESHOPなどへ行き好きな物を選んで頂き食べていただくなど外出の機会を増やしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 事業所は明るくゆったりとした造りで、観葉植物、雛人形、利用者の作品や行事写真が飾られ、整理整頓された快適な生活空間になっている。
2. 計画的に毎月職員相互の研修会を開催し、知識技術の向上に努めている。
3. 毎週1回外出の機会をつくり希望に応じて散歩、買い物、季節の花見、紅葉狩り、名所地のひまわりやコスモス見学等の支援を行っている。
4. 食材の購入から調理、後片付けまで能力に応じた一連の作業を職員と一緒にしたり、毎月利用者がグループで献立から調理まで行う機会を設け、楽しい食事となるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人が理念を理解共有し、また職員間で話し合いながら日々のケアに努めている	理念を掲示し、各種会議で確認したり、具体的な支援につなげ全職員が共有している。職員対応が理念と相違がある場合は職員が相互に注意している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事や地域の催し物への参加やふれあい作品展・なつ夏コンサート等や歌のボランティアの方に来ていただくなど、また近所の方に夏祭りや芋煮会の声かけを行い交流を図っている	地域の自治会に加入し、地域行事に参加したり、地域のコンサートに出かけたりしている。また、散歩、買い物や歌のボランティアの受け入れを通じた交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の生活の中で地域の高齢者の暮らしに役立つことはないか話し合い相談に求められたときは対応できるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	入居者の状況や日々の取り組みやサービスの状況を報告し、会議の中で出た意見やアドバイスをサービスの向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催し、利用者状況、各種行事等を報告しているが、取組内容や運営の改善課題について検討しサービスの向上に反映されるまでには至っていない。	防災訓練、研修、評価、事故、リスク等についての具体的な取組みや運営の改善課題についても委員の率直な意見をもらい、サービス向上に活かして欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市・主催の連絡協議会へ参加し情報を共有するなどサービス向上に向け取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者も参加し事業所の運営状況を理解している。また、関係法規の指導を受けたり、事故等の報告、地域福祉計画等の情報を受けるなどしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開き身体拘束の知識を深め介身体拘束をしないケアを心がけている	マニュアルを整備し、職員の研修を行い、家族とも身体拘束のリスクについて話し合い情報を共有し拘束をしないケアに取り組んでおり、玄関の施錠もしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開き高齢者虐待の知識を身につけ虐待ケアに努めている。身体的、精神的、言葉の暴力は無い職員同士お互いの行動に注意しあっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用している人はいないが万が一活用する人が出てきたならば在宅介護支援センターと相談しながら支援していくよう進めていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に不明な点が残らないよう話し合い十分理解納得して頂けるよう心掛けている 契約後も疑問や不安等があればいつでも対応していることを伝えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している 運営推進会議には家族の方々にも参加して頂き意見交換し今後の参考にさせていただいている。また介護相談員さんに入っただき入居者の方が意見や要望などお話しされている	日頃のケア場面や家族面会時に利用者、家族の意見や要望を話せるよう雰囲気づくりに努めている。また、運営推進会議委員である家族代表の意見を取り入れ運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開いて、職員が発言できる機会を設け業務に反映させるようにしている	管理者は各種会議やミーティングなどで職員の意見や提案を聞くとともに、日常の業務で把握した情報や必要に応じて個別面談を行い、意見や要望を検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持ちながら業務にあたるよう努めている 情報の共有や質の向上にむけ取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人内での勉強会の参加など勉強できる環境が整っている その後は伝達研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市・主催の連絡協議会への参加することで情報共有する機会がある 課題を持ち寄り情報交換を行いながらサービスの向上に向け取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時点で本人と向き合い新生活への不安がないよう面談する 面談時は傾聴・共感・銃受容に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込み時、本人家族が抱えている不安、問題等を十分に時間をとって話し合い不安なくサービスが受けられるよう共感受容に努める		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査に行った時、本人と家族の意向を把握し安心してサービスを受ける事ができるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互い尊重しながら支えあうより良い関係づくりに努めている 人生の先輩として尊重している 本人の声を大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いや日々の生活状況を伝えている 家族・職員が一緒に考えより良い関係が継続できるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や知人、友人の面会時時はゆっくりと過ごして頂くよう環境作りにも心掛けています	利用者の希望する理美容院や買い物に出かけたり、墓参りなど家族、職員が協力し実施している。また、知人の面会、結婚式に出席するなど馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しやすい入居者には職員が間に入りやすい関係が作れるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居する際に何かありましたらいつでも相談とか連絡をくださいと声を掛けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを実施し本人の希望や意向を伺い希望に添った支援が出きるよう努めている	アセスメントや日常のケアの中で把握した本人の思いや意向を家族や関係者と話し合い本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの暮らしや生い立ちを聞き職員間で情報を共有しこれまでの生活環境を大切にすることを努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常の様子を毎日記録しご家族には面会時や電話で報告している 職員間では申し送りで現状を把握し共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今までの生活歴、個性や希望、現在の心身状況を把握し職員会議時に話し合った内容等本人家族と話し合い介護計画を作成している	モニタリングを実施し、アセスメントを行い現状に即した介護計画を作成しているが、疾病等のない利用者の夜間帯における介護、支援の記録が確認出来なかった。	夜間帯の介護・支援内容が把握できる記録のあり方を検討して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化や新たな気づきがあった時は記録に残し入居者家族と状況を共有しながら状態にあった介護計画書の作成に心掛けている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的なニーズ等にも柔軟な業務体制を取り状況に応じた支援ができるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のお店での買い物イベントの参加などで、地域資源を活用し豊かな暮らしを楽しむことができるよう取り組んでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人と相談のうえ、かかりつけ医や専門医の受診を行い適切な医療を受けられるように支援している。かかりつけ医とホーム職員との情報を共有し合えるよう努めている	利用開始時に、利用者と家族にかかりつけ医に対する意思確認をし、希望に沿った医療機関が選べるよう支援している。内科的な面については、全ての利用者が協力医としている。また、協力医への通院は職員が付き添い、遠方への医療機関受診については、家族の協力を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況 情報の報告を行い協力病院の看護師の指導を受けながら観察対応を行い適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に足を運び情報交換 相談を行うようにしている。担当医師や看護師と退院後のケアについても話し合いさせて頂いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた際にご家族への現在の状態や今後のケアについてその都度説明を行うようにしている。今後のケアや医療面で話し合う事が困難な時は主治医から直接ご家族へ今後について話をするときもあります	利用開始時に本人、家族に対し重度化や看取りに関する指針を説明している。また、事業所としてその支援体制や協力医療機関との連携体制はとられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応時のマニュアルがあり対応について確認する事ができる。日常的に勉強会を通し緊急時の対応に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼 夜を想定した避難訓練をおこなっています。いろんな災害テーマを設定し訓練の動きを検討し次回につなげている	年4回、昼夜間の火災を想定した訓練の中で、初期消火、通報、避難などの訓練を実施しているが、消防機関や地域住民などの協力を得た訓練は実施されていない。また、消防計画書などの届け出もされていない。	消防計画書及び防火管理者変更届を行うと共に、消防機関など協力を得て、地震、風水害も含めた訓練も実施して欲しい。また、非常通報連絡網や防災訓練など、地域住民との協力体制の構築に努めて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重すると同時に誇りやプライバシーを傷つけない様その人にあった声掛けをするよう十分配慮している	強制することなく利用者の思いに合わせた支援に心掛け、人権や誇りを損なわないケアに努めている。また、入浴や排泄支援などでの声掛けも、誇りやプライバシーに配慮した支援に努めている。さらに、管理者は会議などで適切な対応について話や注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりを通してお互いの信頼関係を築くのに努め、本人の訴え、思いに耳を傾け自己決定を尊重した働きかけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに配慮し無理強いする事なく穏やかにのんびりとその人らしい暮らしができるよう心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望を聞きながら好みに応じたおしゃれができるよう支援している。身だしなみの声かけまたは介助を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理、盛り付け、配膳下膳など役割を持っていただけるよう支援している。メニュー作りにも参加して頂き食事が楽しみになる様工夫している	食材の購入から食事の後片づけまで、一連の作業を能力に合わせた役割を持ってもらい、作る楽しみや食べる楽しみを味わいながら、楽しい食事となるよう支援している。また、毎月1回、利用者がグループで献立を考え、食事づくりを行う機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量を一人ひとりに合わせた必要量を常に把握し身体状況に合わせた食形態に気をつけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きうがいの声かけを行っている。夜間は義歯の洗浄を行っている。定期的に歯科医の往診がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握し個々に合った声かけトイレ誘導を行っている。又状態に応じ自立に向けオムツ外しにも取り組んでいる	排泄チェックや表情、仕草などから利用者の排泄パターンを把握し、羞恥心やプライバシーに配慮したさり気ない声かけや、トイレ誘導を行っている。また、オムツの少量化と自立に向けたオムツ外しの支援も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝はヨーグルト、午後の水分補給時には牛乳及び食物繊維含有食品等を取り入れ実施している。水分摂取量にも気をつけている。又、体操を行い便秘予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりの要望に配慮しながら支援している。入浴を拒まれた場合には無理強いせず足浴、清拭などの対応を行っている。お楽しみ入浴を行っている	週3回、利用者の希望に沿った入浴支援を行っている。入浴を好まない利用者には、清拭や足湯などで対応している。また、対応職員を増やして、打ち身などが無いかな、状態観察をしたり、着替えや入浴時の安全にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の管理や寝具の調整など安らげるような環境づくりをしている。本人の意思を尊重しながら個々の生活リズムを考慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬一覧を個々のファイルに保存しいつでも内容を確認できるようにしている。内服薬の変更時には特に留意し申し送りを行い状態観察を行って医師、薬剤師にいつでも相談できる体制にある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の特技や仕事歴から役割分担をし日々の生活に得意分野が取り入れられるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に買い物やドライブなど外出の機会をつくっている。課外活動を設けており外で食事をする中で地域の人々ともふれあっている	日常的な散歩やドライブ、毎週の課外活動を通して、花見や紅葉狩りなど四季折々の名所地に出掛け、季節感を味わっている。また、家族の協力を得ながら、食事や買い物などに出掛けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお金を預かっており日用品や嗜好品の購入をお手伝いしている。外出時にはお金を持ち支払う機会を作っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて自由に使える公衆電話があり便りができるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温の調整や照明音楽やテレビの音量の調整を入居者の希望に応じ対応している。季節の花や工作の飾りつけを取り入れくつろいでいただける空間を提供している	居間は、窓枠が広く取られ、外光がふんだんに入り込み、非常に明るい環境となっている。また、広い共用空間には、植物や季節を感じる利用者の共同作品が飾られ、落ち着いた住環境となっている。さらに、食後は消毒薬を使用した清掃をし衛生面にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間でも自由に気の合った同士で話したりくつろいで頂ける空間を提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	家族の写真や使い慣れた衣類や寝具など自宅や家族が感じられるものを自由に持ち込んでいただきその人にあった環境づくりに心がけている全個室なのでプライバシーは確保されている	自宅で使い慣れた寝具や衣類、仏壇や遺影が持ち込まれ、思い思いに過ごされている。また、プライバシーを守るため、居室の入り口戸は、日常的に閉めるようにしている。清掃は必要に応じて職員が支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内バリアフリーになっており手すりも多くある。それぞれ居室のドアに好みの花を飾ることで自室の間違いが少ない		